

○玉名市地球温暖化対策実行計画 令和2年度進捗状況

1 温室効果ガス総排出量の比較

本市の事務事業における2020年度(令和2年度)の温室効果ガス総排出量は、基準年度となる2013年度(平成25年度)と比較して、43.1%の減となりました。

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
排出量(t-CO ₂)	14,003	13,123	11,689	10,616	10,366	7,945	8,053	7,971
目標排出量(t-CO ₂)	-	-	-	-	10,428	10,382	10,207	9,811
増減率(2013年度比)	-	-6.3%	-16.5%	-24.2%	-26.0%	-43.3%	-42.5%	-43.1%

2 電気・その他エネルギー別使用量の比較

電気やその他のエネルギーの使用状況は、以下のとおりです。

項目(単位)	2013年度	2020年度	増減量	増減率
電気使用量(KWh)	18,711,939	16,434,421	△ 2,277,518	-12.2%
ガソリン使用量(ℓ)	60,364	57,346	△ 3,018	-5.0%
灯油使用量(ℓ)	267,459	183,665	△ 83,794	-31.3%
軽油使用量(ℓ)	9,275	3,298	△ 5,977	-64.4%
A重油使用量(ℓ)	425,201	339,094	△ 86,107	-20.3%
LPガス使用量(m ³)	30,934	16,435	△ 14,499	-46.9%

3 温室効果ガス総排出量減の主な理由

・カーボンマネジメント強化事業による設備改修工事期間中の設備機器の使用停止や新型コロナウイルス感染拡大防止による施設の利用数の減少により、電力をはじめその他のエネルギー使用量は減少しています。

4 今後の課題等

・令和2年度における温室効果ガス減少の要因としては、カーボンマネジメント強化事業を実施した施設での排出量削減やコロナ禍における施設休館による排出量削減が主な要因です。施設利用者の減少が少なかった施設においては、過半数の施設において排出量が増加傾向となっており、新型コロナウイルス感染拡大の収束を考えた場合に、設備機器の使用方法を再度見直す等の改善が必要となってくると考えられます。